

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第291回

松本人志 (ダウントウン)

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年1月27日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

あいつ (浜田雅功) がいい仕事をすれば
誰よりもうれしいし、誰よりもムカつく。



松本 人志は、日本のお笑いタレント、漫才師、司会者、映画監督、作家、コメンテーター。お笑いコンビ・ダウントウンのボケ、ネタ作り担当。相方は浜田雅功。愛称は松っちゃん。妻は元タレントの伊原凛。吉本興業東京本部所属。左利き。

Column

前回のコラムで紹介した浜田雅功さんとお笑いコンビ『ダウントウン』のボケ担当として活躍されています。お笑いにおける“プレイヤー”としてだけでなく、“プロデューサー”としても非常に高い能力を発揮して私たち視聴者を楽しませてくれています。私の世代は幼い頃に『オレたちひょうきん族』という番組と『8時だよ！全員集合』という番組が大流行し、お笑い界を席卷していましたが、いつの間にか『ダウントウンのごっつええ感じ』や『ダウントウンのガキの使いやあらへんで！！』が流行の先端になっていました。私にとって松本さんは“これ以上面白い人なんていない”と思っていた人たちを追い抜き、新時代を築き上げた芸人さんだと感じており、おそらく現在のお笑い界でトップの実力を持つ芸人さんだと私は思っています。

今回も前回と同様に『友情』を強く感じる言葉です。いわゆる“社会人”として生活している私ですが、友達と一緒に仕事をすることという想像してみると、実体験も含めた正直なイメージとして『難しい』と感じます。理由としては、馴れ合いになりすぎて仕事（経済活動）にならない可能性があること、意見が対立した時に関係悪化を恐れるあまり、本音をぶつけにくくなりそうなことなど“不安材料”の方が多くあったからです。そんな私からすると、ダウントウンのお2人が友達としてそのような感覚を持っているのが気になるのですが、今回のお2人の言葉から『友達でありながら最高のビジネスパートナーである』という“家族以上の間柄”とも言える信頼関係はかなり強固なものだと思いますし、素晴らしい“プロ意識”を持った人たちなのだと改めて感じました。

私の中では一番の友達には近くにいる困った時の“心のオアシス”として、お互いに別々の場所で努力し、時々ポジティブな近況報告をお互いにできる関係でありたいという願いがあります。現在の私にはその願いにピッタリと当てはまる友達があります。とても幸せなことだと感謝しています。その友達に対して私はもちろん信頼をしていますが、ライバル視もしています。しかし“敵わない”と思うくらいの“憧れ”に近い尊敬もしていて活躍が楽しみになっている自分がいます。そういう意味では全くレベルは違いますが、今回のお2人の言葉は私にとっての『友情の定義』とかなり重なる部分があり、共感できるものでした。そして、改めて『仲間の大切さ』『仲間がいるという心強さ』を感じました。最高の仲間を手に入れることが最高の自分を手に入れる近道だと私は信じています！